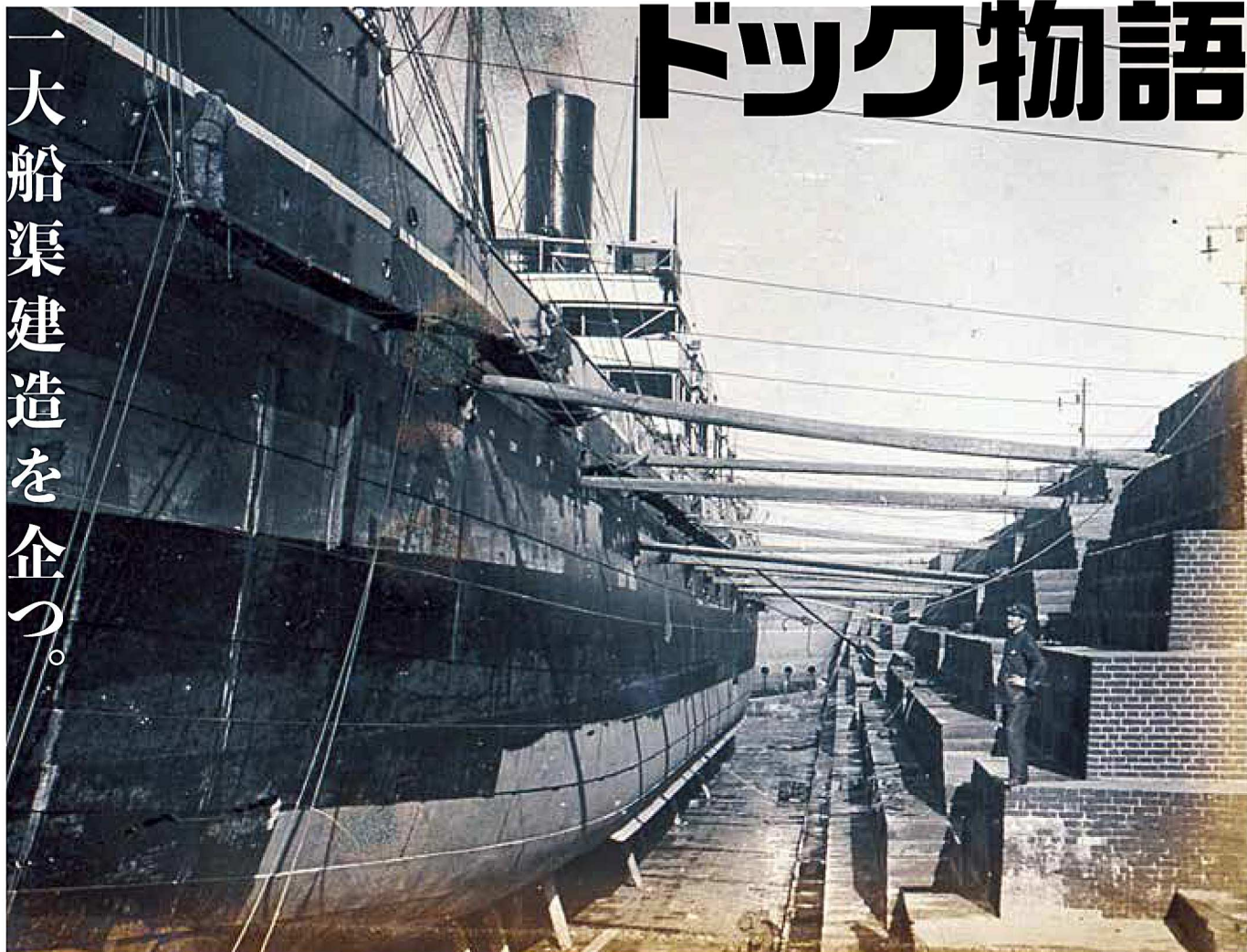


YOKOHAMA DOCK

企画展

横浜船渠

ドック物語



一大船渠建造を企つ。

横浜みなと博物館

2019.2.2 - 3.24 Sat. Sun.

休館日 月曜日 但し、2月11日(月・祝)は開館し翌12日(火)休館 開館時間 10:00~17:00

入館料 一般：200円、小・中・高校生・65歳以上：100円 ※企画展のみ見学の料金です。横浜みなと博物館常設展示室をご見学になる場合は、別途入館料が必要です。

※横浜みなと博物館常設展示室・柳原良平アートミュージアムの単独券(一般：400円、65歳以上：250円、小・中・高校生：200円)で企画展もご覧になれます。

※帆船日本丸は大規模修繕工事のためご見学いただけません。※毎週土曜日は小・中・高校生は単館券が100円の特別料金になります。 特別協力 横浜開港資料館、三菱重工業株式会社横浜製作所
後援 神奈川新聞社、一般社団法人横浜港振興協会、横浜市港湾局、NHK横浜放送局、+Vik(テレビ神奈川)、読売新聞横浜支局、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局



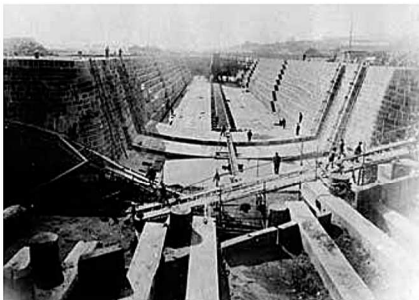
諸工職業館 造船所ドック中蒸気修理ノ図
1879(明治12)年 画: 静斎年一
石造りのドック中で船を修理する様子を描く。船をドックに入れて修理するドック業は新しい産業。石造ドックは当時、横須賀造船所に2基、工部省長崎造船所に1基あったにすぎなかった。当館蔵



キャプスタン・ドラムヘッド
1895(明治28)~1899(明治32)年頃
キャプスタンはドックの両側に設置され、ドックに入る船から取ったロープを巻き取り入渠させる巻き揚げ機。六角星は横浜船渠の「渠」をあしらっている。
三菱重工業株式会社横浜製作所蔵



第二号ドック建基式記念銘板 1896(明治29)年3月29日
この建基式の銘板は、ドック解体調査中の1990(平成2)年にドック底盤先端部から発見された。銘板には横浜船渠の専務川田龍吉ほか役員及び工事監督恒川柳作の名が刻まれている。三菱地所株式会社蔵



竣工した第一号ドック 1899(明治32)年2月
海側から渠頭部を見る。1896(明治29)年7月开工。1899(明治32)年5月開渠式を行った。
恩地薫氏所蔵・横浜開港資料館保管

横浜みなとみらい21地区に残る旧横浜船渠(後の三菱重工業横浜造船所)の2基の石造ドックは、近代横浜の港、工業、街の発展の歩みを物語る貴重な遺産です。船を修理、検査するドック(乾ドック)は主要港には欠かせない港湾施設でした。イギリス人技師H.S.パーマーの計画を元に、ドック築造のスペシャリスト、海軍技師恒川柳作つねかわりゅうさくの設計・監督により、第二号ドックは1896(明治29)年、第一号ドックは1898(明治31)年にそれぞれ竣工しました。防波堤、鉄棧橋(大さん橋)とこのドックの完成で、国際貿易港横浜港は近代港の形を整えました。1910(明治43)年には第三号ドックを追加しました。横浜船渠は横浜屈指の大工場であり、入渠船の多寡が横浜の景気に影響するともいわれました。市民からは「ハマのドック」と親しまれました。

3基のドックは内外の多くの艦船の修繕、改造、検査に使われてきましたが、1982(昭和57)年までには役割を終えました。そして、横浜市の都心臨海部整備事業「みなとみらい21」のなかで石造ドックは保存・活用されることになりました。第一号ドックは帆船日本丸(国重要文化財)の係留・保存、第二号ドックは屋外広場ドックヤードガーデンとして整備されました。2基は現存する最も古い民営石造ドックで、国の重要文化財に指定されています。

この企画展は、第一号ドックが日本丸大規模修繕工事ともない、約20年ぶりに排水してドライアップするのを機に、横浜船渠のドックの歴史や果たしてきた役割をたどるものです。

記念講演会 横浜船渠の一、二号ドック

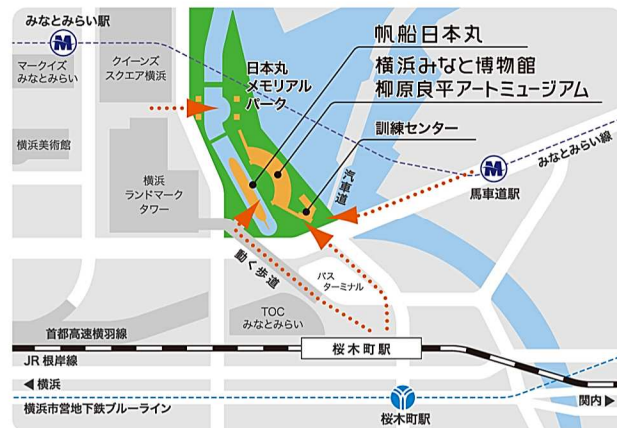
— 港の近代化遺産 — 日時 3月3日(日) 14:00~16:00
講師 青木祐介(横浜市発達記念館副館長) 会場 日本丸訓練センター 定員 100名(申込多数の場合は抽選) 参加費 500円 申込締切 2月23日(土)(必着) 申込方法 往復はがきに参加者全員の住所、氏名、電話番号を明記して、横浜みなと博物館「記念講演会」係までお申し込みください。※応募された方全員に当落をお知らせします。今回お申しいただいた個人情報は当行事の運営以外の目的で使用することは一切ございません。

学会員による展示解説

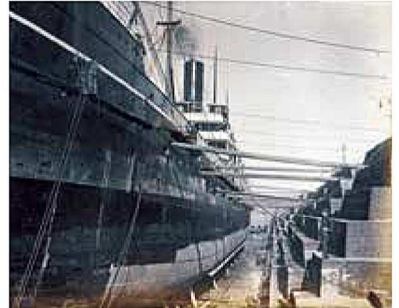
日時 2月9日(土)、3月2日(土)、3月16日(土) 各日①11:00②14:00
会場 横浜みなと博物館特別展示室 参加費 無料 ※ただし、企画展または常設展示の入館料が必要。申込不要、当日会場へお越しください。

横浜みなと博物館

〒220-0012 横浜西区みなとみらい2-1-1
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
TEL:045-221-0280 FAX:045-221-0277 <http://www.nippon-maru.or.jp/>
交通 JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車、
またはみなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 いずれも徒歩5分



海から見た横浜船渠のドック 明治30年代
左の第一号ドックには船が入っている、第二号ドックには入渠船はない。中央の建物のY.D.C.はYokohama Dock Companyの略。当館蔵



第一号ドックに入渠中の日本郵船客船讃岐丸
1909(明治42)年
渠壁から船体に横支柱が何本もかけられ、船から作業用のロープが降ろされ作業用足場が渡されている。当館蔵



客船氷川丸が入渠する第一号ドック 1950(昭和25)年頃
三菱重工業横浜造船所は、戦後占領軍に接収され日本商船管理事務所が置かれた。米軍艦船の修理や改造工事などで繁忙を極めた。三菱重工業株式会社横浜製作所蔵



海側から見た三菱重工業横浜造船所横浜工場
1972(昭和47)年
写真左から第一号ドックにカーフェリー、第二号に小型船、第三号ドックには貨物船が入っている。
三菱重工業株式会社横浜製作所蔵



第一号ドックの帆船日本丸 1991(平成3)年2月
平成2年度の日本丸船体整備工事はドックを排水して行った。日本丸は渠底中央に設置された盤木という台の上に乗っている。扉船(戸船)から渠頭部を見る。当館蔵

柳原良平アートミュージアム特集展示
宝船と七福神
3月24日(日)まで開催中